２０１８年度　最終　１月　難関大本番レベル記述模試　国語採点基準

１　**文（文章）で解答する設問**の答案については、次のＡ項の加点要素の合計から次のＢ項・Ｃ項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は０点としマイナスの得点はつけません。

Ａ

ａ　以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

ｂ　ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か０点で採点することを原則とします。たとえば５点配点された加点要素であれば５点か０点で採点することを原則とします。

　ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

ｃ　ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点（独立採点）すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

ｄ　**解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

Ｂ

ａ　答案中に大きな誤読と判定される内容（語句）などがある場合は、その内容（語句）を減点要素として示されている場合もあります。

ｂ　加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

Ｃ

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき１点の減点要素とします。

ａ　誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

ｂ　脱字。

ｃ　文末の句点の脱落。

＊字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし１点の減点とします。

ｄ　その他不適切と判断せざるをえない箇所。

ｅ　不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

　たとえば「…とはどういうことか？」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

　また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

＊ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

　また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

２　日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

３　次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を０点とします。

ａ　答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

ｂ　一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を０点とします。

ｃ　字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

ｄ　答案の文章が最後まで完結していないもの。

４　**古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

一（評論）採点基準（合計＝５０点）

問一　各3点　X＝ホ　Y＝ハ

問二　10点
（模範解答例）
A　5点
神という共通の一点に結ばれていた建築、文学、音楽、美術などの緊密な関係が、
B　5点
近代以降、神が死んだため、それぞれ別々なものとして扱われるようになってしまったから。

各加点要素の加点の条件
【A・Bに関して部分採点を行う（A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない）】
A　【近代以前】　5点
建築、文学、音楽、美術などの芸術は神という共通の一点に緊密に結ばれていた
＊類似表現　「建築、文学、音楽、美術など」は「すべての芸術」でも可。（単に「すべて」だけでは1点減）
「緊密に結ばれていた」は「緊密に関係し合っていた」でも可
B　【近代以降】　5点
神が死んだため、それぞれ別々なものとして扱われるようになってしまった
＊不適表現　「神の秩序が崩れ去った」「独立した「ジャンル」の中で考えられるようになった」2点減

問三　5点　ハ

問四　5点　V

問五　12点
（模範解答例）
A　○1点
「神の死」によって
B　○2点
自由を得た近代人は、その代償として、
C　4点
自分の存在を自分で証明できないという事実を受け入れられず、
D　○5点
自分というものについて解決できない悩みをもつようになったということ。

各加点要素の加点の条件
【A・B・C・Dに関して部分採点を行う（A・B・C・Dそれぞれ単独に採点を行って構わない）】
A　近代人は、「神の死」を経験したこと（1点）
B　自由を得た代償として（2点）
C　自分の存在を自分で証明できないという事実を受け入れられないということ（4点）
△不適表現　「創造物がたしかな価値たりうることを決めるものを失い」　3点減
D　近代人は、自分というものについて解決できない悩みをもつようになったこと（5点）
○類似表現　「自らの存在へのぬぐえない悩みを持つようになった」
△不適表現　「自己の存在を証明することに苦しめられる」　3点減

△不適表現　「どうしようもない」　３点減

△不適表現　「苦しみ永遠に彷徨っている」　３点減

問六　６点　二

問七　６点　ロ

二（評論）　採点基準（合計＝５０点）

問一　各2点（計8点）

1　吐露　2　唐突　3　矛先　4　担保

※解答通り

問二　各3点

Ⅰ　二　Ⅱ　ホ

※解答通り

問三　4点

2

※解答通り

問四　6点　（模範解答例）

A　○2点

豊かさの獲得を目指して

B　○2点

選択の幅を広げてきたのに、

C　○2点

その結果、選択の決定が困難になったという状況。

（47字）

※A・B・Cに関して部分採点

A　「豊かさの獲得を目指して」（2点）

※傍線部「皮肉」について、「期待された良い結果」の指摘。

○「選択肢の豊かな世界の実現を目指して」も可。

＊「選択肢の豊かな世界の実現を目指して」は「豊かな世界の実現を目指して」いるという部分に得点を与える。はじめから「選択肢の豊かさ」を目指しているわけではない。

B　「選択の幅を広げてきたのに」（2点）

※A・Cのポイントとの関係で「選択肢が増やされた」ことについて説明。

△「近代化を進めてきたが」は、「近代化」が必ず「選択肢の増加」を意味するわけではないので説明不十分で、▲1点減点で△1点。

＊A・BとCの関係は「皮肉」な関係であるので、逆説のニュアンスを示していることが必要である。「～のに」「～が」「かえって～」などの表現があるかどうかチェックする。そのことが示されていない答案はBの部分に得点を入れない。B・Cは「増やした（B）のに（逆説のニュアンス）うまくいかなかった（C）」という関係である。

C　「その結果、選択の決定が困難になったという状況」（2点）

※傍線部「皮肉」について、「良くない結果」の指摘。

問五　6点　（模範解答例）

A　○2点
社会の中に自己を評価する明確な規準があり、

B　○2点
その規準に従って、

C　○2点
他の手本となれる行動ができる存在。

（47字）

※A・B・Cに関して部分採点

A　「社会の中に自己を評価する明確な規準があり」（2点）

※傍線部のある「それ」の内容を説明。

＊「社会の中にある」ことの指摘で1点、「明確な規準である」ことの指摘で1点。

＊「規準」はもちろん「基準」も可。

B　「その規準に従って」（2点）

※傍線部「従順な模範生」であるから「規準に従うこと」という性質であることの指摘。

C　「他の手本となれる行動ができる存在」（2点）

※「模範」の意味的説明。

○「誰もが認める存在」も可。

△「優秀な存在」は、「模範」の意味に厳密には当てはまらないので▲1点減点で△1点。

＊学校の教師と生徒の関係で説明しているものは傍線部の文脈から読み取れないので×0点。

問六　10点　（模範解答例）

A　○2点
社会の中に多種多様な価値観が存在するため、

B　○2点
現代の子どもたちは、

C　○2点
自分が進んでいる方向が正しいかどうか、

D　○2点
常に周囲の評価を気にしなければならず、

E　○2点
正しさを得るため他者から自己承認を強く求めるということ。

（97字）

※A・B・C・D・Eに関して部分採点

A　「社会の中に多種多様な価値観が存在するため」（2点）
※問五との対比で、社会の価値観が多様化していることの説明。

B　「現代の子どもたちは」（2点）
※「承認願望」を持つ主体を指摘。
×「現代の日本人は」は×0点。

C　「自分が進んでいる方向が正しいかどうか」（2点）
※現代の子どもたちが自分の選択した方向性に不安を感じていることの説明。

D　「常に周囲の評価を気にしなければならず」（2点）
※Cのポイントの不安を解消するために周囲の評価が必要であることを説明。

E　「正しさを得るため他者から自己承認を強く求めるということ」（2点）
※Dの評価によって自己の存在を確認していることの説明。
×「（Dを受けて）それを羅針盤としている」は×0点。

＊傍線部直前の「このような」という指示語に注目し、傍線部のある段落の内容をまとめる。
＊Eのポイントの「羅針盤」を用いた説明は、「承認願望の強まり」の言い換えになっていない点、比喩表現をそのまま用いている点で×0点。

問七　各5点

ロ・へ

※解答通り（順不同）

三

問一（5点×2）

問一・A・模範解答例　A　身分の高い人も低い人も泣き騒いでいる様子は、たいそう忌まわしく思われる。（5点）

a（1点）　b（1点）　c（2点）　d（1点）

【各部の採点】5点満点。加点ポイント4箇所。

a「身分の高い人も低い人も」…1点
「身分の高い人と身分の低い人」のように書いてあること。「人々」では×。

b「～泣き騒いでいる様子は」…1点。
この箇所が主部になっていること。「～泣き騒いでいるのは」でも可。「たる」が「～ている」のように存続の意であること。完答。

c「たいそう忌まわしく」…2点。
「ひじょうに不吉に」でも可。完答。

d「思われる」…1点。
「思われる・感じられる」などのように書いてあること。「～見える」は×とする。

問一・F・模範解答例　F　再び父上に逢えないようになったら困る。（5点）

a（2点）　b（3点）

【各部の採点】5点満点。加点ポイント2箇所。

a「再び父上に逢えないように」…2点。
「二度と父上に逢えないように」の意。完答。「父上・父の大将」という対象の補足。「父上・父の大将」の代わりに「髭黒の大将」も誤りではないので認める。

b「～なったら困る。」…3点。
「～もこそ・・・已然形」の解釈。「～したら大変だ」も可。完答。

問二　1　するゑ　2　みゆる　3　ゐ（1点×3）

解答のままでないと零点。

問三　二（5点）

問四　殿（5点）

問五　7点

問五・模範解答例

a（3点）髭黒の大将からの助けも期待できそうもないし、
b（3点）敵対する光源氏や内大臣らが権力を握っている時であるから。c（1点）（五〇字）（7点）

【各部の採点】**7点満点**。加点ポイント3箇所。

a「髭黒の大将からの助けも期待できそうもない」…**3点**。
「父の助力が見込めない」の意。完答。

b「敵対する光源氏や内大臣らが権力を握っている時」……**3点**。
「敵対する光源氏と内大臣の全盛期である」の内容。
「敵対する」の内容のないものは1点の減点。

c「から」……**1点**。
「～ので・～から・～ため」のような理由説明。この箇所だけ正解では得点しない。

問六　8点

問六・模範解答例

a（2点）愛情のある親でも b（1点）時世や人に流されて
c（2点）子への愛情がおろそかになるものなのに、大将のような薄情な人には、
d（2点）e（1点）子息たちの後見など期待できないということ。（70字）（8点）

【各部の採点】**8点満点**。加点ポイント5箇所。

a「愛情のある親でも～（ましてや）大将のような薄情な人には」…**2点**。
「愛情を持つ親でさえ～まして大将のような冷たい人には」のように類推「だに」の表現ができていること。「愛情のある親」と「薄情な大将」が対比してあること。

b「時世や人に流されて」……**1点**。
「世間の動きに左右されてしまい」のような内容。

c「子への愛情がおろそかになるものなのに」…**2点**。
「子供への思いがいい加減になってしまう」の意。

d「子息たちの後見など期待できない」…**2点**。
「子供の将来を託すことなどできない」でも可。「何も期待できない」は×。

e「ということ。」……**1点**。
説明問題の文末処理。この箇所だけ正解では得点しない。

問七　4点×2

問七（Ⅰ）模範解答例

Ⅰ　a（1点）姫君の、b（2点）慣れ親しんできた父の大将の邸を離れることを名残惜しく思う心情。c（1点）

（三五字）（4点）

【各部の採点】**4点満点**。加点ポイント3箇所。

a「姫君の～心情」…**1点**。

主体の明示と文末処理。完答。「姫君の～気持ち」でも良し。ここだけの正解は加点しない。

b「慣れ親しんできた父の大将の邸を離れること」…**2点**。

「慣れ親しむ＋父の邸宅＋離れること」の両条件が入っていること。

「慣れ親しんだ邸宅を離れること」のような「父の～」のないものは1点。

c「名残惜しく思う」…**1点**。

「名残惜しい」は「離れがたく」でも可。「悲しい」だけではダメ。「（姫君の～）名残惜しさ」は可。

問七（Ⅱ）模範解答例

Ⅱ　a（1点）北の方の、b（3点）慣れ親しんだとは言え、夫の邸には居られないのだという心情。

（三四字）（4点）

【各部の採点】**4点満点**。加点ポイント2箇所。

a「北の方の～心情」…**1点**。

主体の明示と文末処理。「北の方の～気持ち」でも良し。ここだけの正解は加点しない。

b「慣れ親しんだとは言え、夫の邸には居られないのだという…**3点**。

「慣れ親しんだところだが＋夫の邸宅には居られない」の意。

「慣れ親しんできたこの邸宅にはいられない」は1点。「夫の邸宅にはいられない」は2点。夫の実家に入った妻が離縁されてそこに居続けることはできないという常識を踏まえることが大切。

問八　ハ・ニ（2点×2・順不同）

四（漢文）採点基準（合計＝５０点）

問一　【解答通り】各２点　２×４＝８点

模範解答

a＝いかん（と）　b＝いえど（も）　c＝すなわ（ち）
d＝いよいよ

採点基準　歴史的仮名遣いにしたもの０点。b「いへど（も）」c「すなは（ち）」。

問二　６点

模範解答

a３点
必ず人徳の備わった立派な人物になるために
b２点　c１点
学ぼうとしているのか、そうでないのか。

採点基準
・文が不完全のもの…０点。
a・「君子」を具体化していないもの０点。
・「教養のある人物」なども可。
・「すばらしい人」…１点。
・反語文にとっていて「優れた人物」など「君子」の具体化のみの場合は２点。
・「必ず」に相当する語がない場合減点１点。
b・願望表現のないもの減点１点。
c・「そう」の部分を具体化して、「学ぼうとしていないか」も可。
・「どうか」だけでは不可。
・「いや」をつけたもの０点。反語ではない。

問三　9点

模範解答

正しい志を持たずに学問をすると、良い結果が得られないだけでなく、　a3点　b2点

かえって驕りを増長させたり　c2点

欠点を隠す虚飾の道具としてしまう　d2点　ということ。

採点基準

累加形の構造を理解していること。

→「Xだけでなく、また（加えて）Yでもある」の形。

a・「学問」を「勉強」とするもの減点1点。

b・「得るものがない」も可。ここに「～だけでなく」が必要。

c・「傲り」「驕り」「奢り」「おごり」も可。ただし誤字は1点減。

d・「意味がない」など1点。

問四　【解答通り】5点

解答

＝　不レ得レ不下詢二諸父兄一、諮中於諸友上。

採点基準

・送り仮名をつけたもの減点3点（送り仮名の正否は不問）。

問五　【解答通り】2点

解答

＝　孔子

問六　各5点＝10点

模範解答

（i）いにしえの　a1点　聖人賢人や優れた人物から受ける　b2点　学問上の利益。　c2点

（ii）生徒に教えるのに　d1点　適切な方法を用い、　e2点

f2点

適切な順序を間違えない　人物。

採点基準

a・「昔の」も可。
b・「聖人賢人」か「優れた人物」のどちらか片方も可。
c・「利」のままは1点減点
e・「適切」は「正しい」「良い」も可。
e及びf・「方針」「方向」は不可。

問七　10点

模範解答

a3点
君子であろうとする志を立て、
b1点
良い先生に就き、
c1点
古の教えを学び
d1点
疑問を父兄諸友に尋ね、
e1点
人より努力し、
f1点
繰り返しおこなって
g2点
自分の力で深く考えるように
すべきである。

採点基準

a・「正しい志」も可。
c・「古の聖賢前哲に学び」も可。
e・「人一倍努力し」「努力し」「懸命におこない」なども可。
g・「自分の力」に1点、「深く考える」に1点。